

より良い市民会館をつくるための弊社の働き

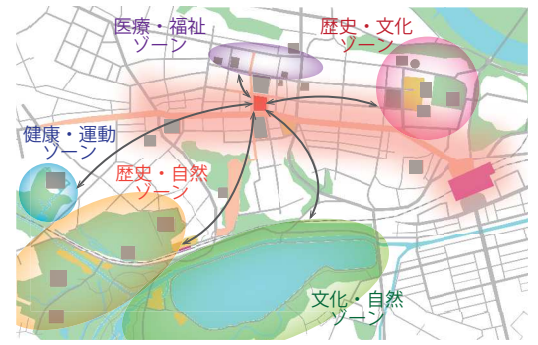
S-012

●地域特性や地域資源の活用について

○水戸のまちなかをつなぐ

水戸のまちは都市中枢軸を中心に自然・歴史・商業などのゾーンが分散しながら存在する、独特のバランスを保ったまちです。

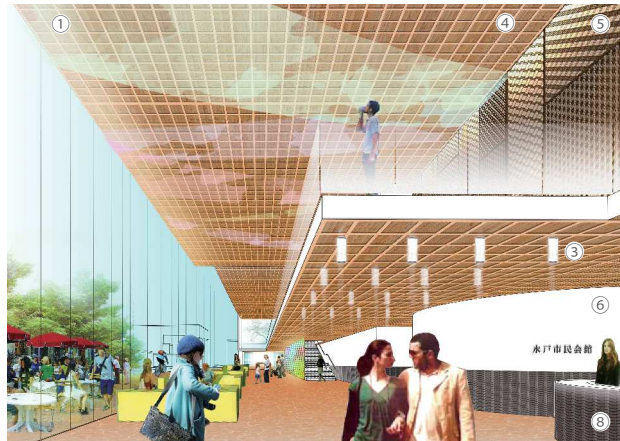
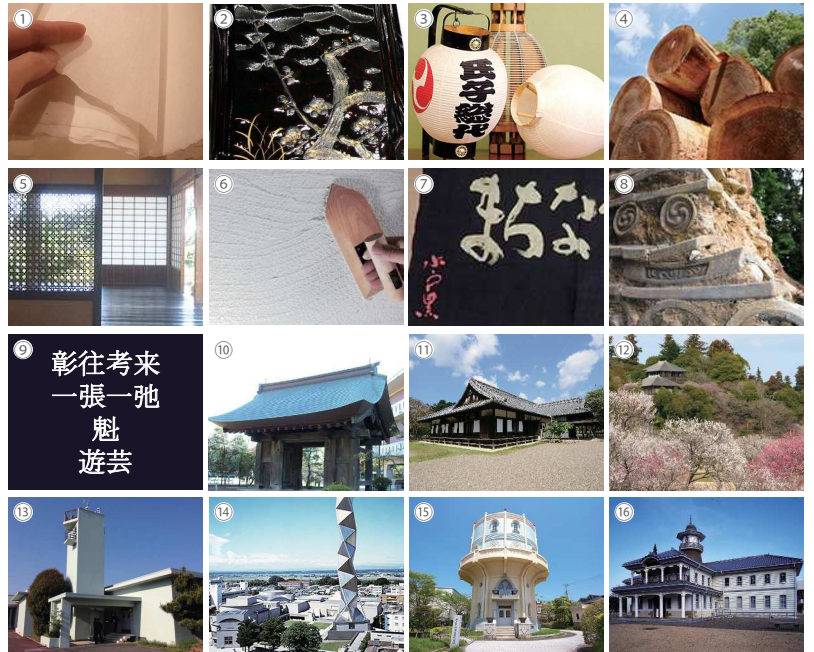
水戸独特の気候や習慣を考慮しながら、それら各ゾーン同士を市民会館を拠点とした人の流れや自然の導入、修景計画等によりつなぐことでまちのポテンシャルを高め、魅力ある住みよいまちをつくりたいと考えます。



▲西のひろばから見た市民交流ラウンジ。人々が行き交う市民会館は新しい交流が生まれ、まちに活力をもたらします。 ▲中心市街地を取り囲む特色あるゾーン

○未来へつなぐ水戸のたからもの

水戸の歴史の中で育まれた文化・技術・思想は、未来へ残したい水戸のたからものです。地場産材や伝統技法の活用を施設全体に活かしていきたいと思えます。



▲水戸の文化を取り入れた市民交流ラウンジ。

<伝統工芸> ①西ノ内和紙(天蓋) ②水戸彫 ③水府提灯(照明や修景計画) <地域資源> ④八溝杉等の地場産材(空間の木質化) <伝統技術> ⑤建具の細工(壁面装飾) ⑥左官(漆喰の白壁) ⑦水戸黒(インフォメーションサイン) ⑧瓦塀(市民ワークショップとして提案) <思想> ⑨水戸学(にわに込める思想) <歴史的建造物> ⑩薬医門(エントランスの風除室) ⑪弘道館 ⑫好文亭 <近代建築物> ⑬水戸市気象台 ⑭水戸芸術館 ⑮水戸市水道低区配水塔 ⑯旧水海道小学校

●設計共同体結成にあたって

本計画は提示された参考平面を基に、市民会館をひと・まちをつなぐ交流拠点とした賑わいの創出や文化の継承等の提案をしています。今後決定される計画において柔軟に対応し、代表企業を支え、ともに市民会館をつくる所存です。

○設計における弊社の思想

これまで弊社では教育施設や庁舎、ホールを備えた会館など公共施設に多く携わってきました。施設を設計するうえで大事にしてきた事は、その地がもつポテンシャルを引き出すよう努力をすることです。ワークショップや意見交換会など今後施設を使っていく人々との協働活動を通し、そのまち・ひとならではの作品づくりを行ってきました。今回の市民会館では代表企業のサポートをするとともに、市民の考えを随所に反映させ、その後の市民活動の場として、**まちづくりの拠点**として、つながり続けられるものを提案していきたいと思えます。

○代表企業を支える地元企業としての役割

・地場産材の利用を促進し、伝統技術の継承を提案します。水戸の産業を支え、伝統を守る一助となると考えます。

・建築を通じたワークショップを提案します。市民との意見交換や、市民交流ラウンジにおける瓦塀風の腰壁づくりなどの積極的な協働活動を通し、市民会館へ愛着を持ち長く親しまれる会館を提案します。



▲市内の幼稚園でのレンガ敷き祭。園児や家族、園の職員、職人、社員全員で旧園舎に使われていたレンガを敷くワークショップを行いました。みんなで歴史を紡ぐ幼稚園をつくりました。